

2020年9月26日 [土] 開演 16:00

# 尾崎亜美 コンサート

出演 尾崎 亜美  
ベース 小原 礼  
ギター 是永 巧一



## 新

型コロナウイルス感染症の影響で、青葉の森公園芸術文化ホールでも殆どの公演を中止・延期せざるを得ない状況が続いていた。尾崎亜美のコンサートも6月に予定されていたのが延期となり、本日も9月26日、ようやく開催にこぎつけた。

感染防止対策を徹底しながらの開催ということで、会場にはいつになく緊張感が漂っていた。まず入館確認票に連絡先などを記入し、検温してから入場となる。間隔を空けながらの座席指定のため満員状態。多くの人がこの日を楽しみに待っていたのだろう。

コンサートが幕を開け、尾崎亜美も開口一番、「やっとなりました！」

ライブで演奏し歌える喜びが伝わってきた。ステージの真ん中にグランドピアノ、その隣りにキーボード。上手にベーシストで夫の小原礼、下手にギタリストの是永巧一の3人編成。尾崎亜美は全曲、弾き語り。

彼女の声はハスキーかつ表情豊かで、MCで話すときは可愛らしいが、歌いだすと迫力がある。特に、「Spinning Wheel」はノリノリのロックでかっこよかった。

「春の予感」「天使のウイंक」「オリビアを聴きながら」・・・など、かつて歌謡番組からよく流れていた曲。それらは、南沙織、松田聖子、杏里が歌っていたなあと懐かしく思い出した。尾崎亜美が楽曲提供していたのだと初めて知った。

「Smile」「スープ」などオリジナル曲は初めて聴いたが、母を想う気持ちが溢れていてじんときた。

コロナ禍でコンサートの自粛を余儀なくされ、自宅で暇を持て余していたとき、夫の小原礼の「仕事はなくても音楽はある！」という一言がきっかけとなり、ふたりで演奏した動画をstayhome musicとしてYouTubeにアップしたという。その中から「Scarborough Fair」を披露してくれた。息の合った夫婦のデュエットが美しかった。

観客は、立ち上がったたり一緒に歌ったりはできなかったが、確かにステージと一体となり音楽を楽しんでいたと思う。私も久しぶりに生の音楽に触れ、砂漠でオアシスに着いた心地がした。出演者、ステージ裏方の皆さん、そして、細心の注意を払ってコンサートを開催して下さった青葉の森公園芸術文化ホールのスタッフの皆様にご感謝の気持ちでいっぱいになった。

サポーター (ライターズ) 伊藤 正子

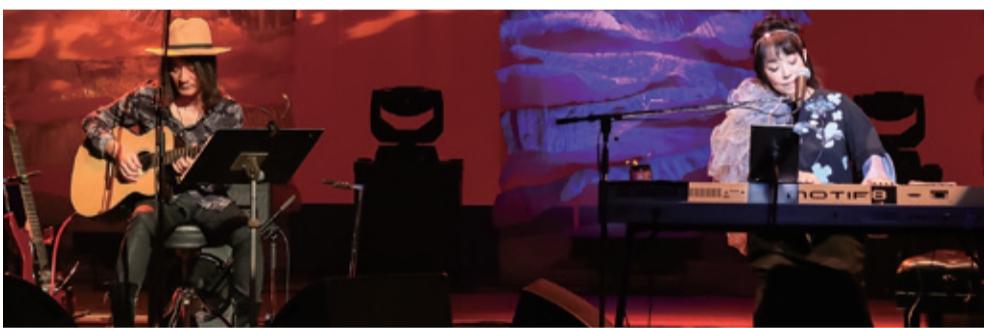
## 尾

崎亜美さんがライブ後のツイッターで「嬉しい、淋しい、嬉しい・・・」今日も音楽の中にいられて幸せでした」とあったように、今日のライブは、生でしか味わえない素敵な音楽空間を一緒に作りたい時でした。

6月20日(土)開催予定が、コロナ禍の為9月26日(土)に延期。入館確認票記入、入場時に手指消毒、密にならぬよう席の配置、換気の為休憩を挟んだ二部構成と、会場側の対応により、お客様も混乱なく、スムーズに席に着く事ができました。

「Voice」からスタート、「マイピュアレイ」「春の予感」、デビュー曲の「冥想」、「シーソー」と初期の定番曲がきましたが、このような状況下で聴くと、サウンドも含め、亜美さんの誠実さ、想いが伝わりました。

3月からライブの順延、キャンセルになる中、ご主人の小原さんが「仕事はなくても音楽が



ある！」と、ご自宅での音楽配信「Stay Home Music」を始められ、そこで演奏されていた昔の洋楽のカバー「スカボローフェア」(Simon & Garfunkel)、「Penney Lane」(The Beatles)、小原さんとバンド組まれているドラムスの屋敷豪太さんの音源も加えた「Spinning Wheel」(Blood, Sweat & Tears)で「部終了」。

15分の休憩後、「私がある」、「泣きたいような気分」で2部がスタート。観月ありささんへ提供の「伝説の少女」。いつもは総立ち率の高い松田聖子さんへ提供の「天使のウイंक」も、皆さん、気持ち15cmぐらい浮いていたでしょうか。そこから、「Smile」、杏里さんへ提供の「オリビアを聴きながら」、そして「スープ」と続きました。聴衆に自制を促した上での終盤も、曲順に工夫があつて抑え目になっていました。亜美さん自身が一番切ない思いなのかもしれないませんが、このご時世での精一杯の、ぐつと胸に沁みる楽曲群でした。

拍手に押されて、アンコール。サービスで「初恋の通り雨16小節」のプレゼント。元気な「Prism Train」、そしてこの先の見えない薄ぼんやりとした不安のいま、ラストはしんみりと、味わい深い曲「手をつないでいて」。腕利きミュージシャンの水戸黄門トリオ(With 小原礼【ベース】、是永巧一【ギター】)の3人がステージ前方でサイレント・ライナーナップでフィナーレとなりました。

来年にはデビュー45周年を迎え、新作アルバムを持って「倍返しだー！」という思いでライブをしたい、と尾崎亜美さん。ぜひ、またここ青葉の森公園芸術文化ホールのステージで、その歌声を聴きたいです。

サポーター (ライターズ) 水飼 治男